

ボランティアコーディネーター ニュース	No1 2008年11月28日 町田市 学校支援センター実行委員会 実行委員長 安藤 源照
---------------------	--

ボランティア

コーディネーター懇談会開催(11/14)

11月14日に第1回ボランティアコーディネーター懇談会が開催されました。町田市教育委員会ボランティアモデル校26校中、22校25名のコーディネーターが参加されました。

「1.支援センターについて(岡田)」「2.コーディネーターの当面の仕事、活動日誌について(佐藤)」について説明の後、岡田統括コーディネーターの司会で懇談会に入りました。

○ 自己紹介では、各コーディネーターから今までの活動経験や現在取り組んでいることなどを発表しながら自己紹介しました。育成会、生活指導補助、スクールネット、少年野球、体操クラブ、おやじの会、読み聞かせ、PTA などなどボランティア経験が豊富な方ばかりでした。このボランティア経験を生かして、学校支援の人材を数多く見つけていただけるのではないかと思います。すでに、先生方とふれあい、的確に要望を把握するために学校内にコーディネーターの室を確保していただいた方や、副校長と地域の会合に出てその存在を広めている方など、着々と進行していることなども分かりました。

○ 次に、各コーディネーターに現在、活動していく上で抱えている不安や疑問を紙に書き黒板に貼っていただきました。①活動の頻度(学校に行く回数)皆さんどれくらいなのか ②学校サイドが趣旨をきちんと理解し、体制も出来るのか ③周知の仕方と応募を促す仕組みはどのようになど、沢山出されました。このことについてそれぞれ意見交換を図ろうとしましたが時間の関係上2-3人の方々からしか御意見をいただけませんでした。そのため次回の懇談会までに【ニュース】を発行し、出された疑問や不安について答えられるところは答え、広く意見交換すべき問題は次回に取り上げようという事となりました。特にコーディネーターの皆さんからは、「各学校の取り組みの事例が知りたい」「その事例も成功例ばかりでなく失敗例やコーディネーターとしての苦労話を聞きたいし、発表したい」との強い要望が出されました。次回の懇談会は、【苦労話懇談会】(1月か2月上旬に開催予定)となりそうです。

○ コーディネーターの皆さんから出された疑問点は下記の通りです。支援センターとしてお答えできるところは、不十分であろうかと思いますがお答えします。答えられなかった事については、次回の懇談会で取り上げたり回答を用意したりいたします。

●コーディネーターの皆さんの不安や疑問

1.謝礼金は所得になるのですか

回答 所得になります。ただし、源泉徴収方式にするか確定申告方式にするか、現在検討中です。今しばらくお待ちください。

2.活動、作業の費用は今までの予算との関係？

回答 学校のボランティアコーディネーターですので、費用そのものは学校の負担となります。用紙・文具類、その他必要な費用については、該当校の副校長とご相談ください。

3.身分は、臨時職員？有償ボランティア？ボランティア保険に加入の有無

回答 有償ボランティアとなりますが、コーディネーターの活動については町田市のボランティア保険の適用は受けられません。したがって現時点での保険については、個々人の対応となります。まことに申し訳ございませんがよろしくお願いいたします。

4.①このような教育活動をする場合、どうしても教材費が必要になるがその辺の配慮はどうする

回答 2と同じ

②活動者の人権も守らねばならないのではないか

回答 コーディネーターに守秘義務があります。人権などについても十分にご配慮をお願いいたします。

5.コーディネーターとボランティアの活動費

回答 コーディネーターは学校支援センターから、ボランティアは学校を經由して教育委員会指導課から支払われます。コーディネーターがボランティア活動として学校支援活動をされた場合は、ボランティア活動費として扱われます(ボランティア活動の有償か無償かは学校の判断です)。

6.保護者のお手伝いとボランティアとの違いが分かりづらい

回答 教育委員会としては、保護者のボランティア、お手伝いについては原則無償としております。ただし、ゲストティチャーとしてかかわった場合などは、有償も認めております。例えば、2年生の生活科に【秋を探そう】という単元があります。その際、児童を引率して公園に連れて行ったとします。そこに保護者の方が安全を守るために様々なお手伝いをしてくださった場合は、無償ボランティアとなります。しかし、授業の中で秋に関する自然の変化や動植物について話したり教えたりして、授業構成の中で重要な役割を担った場合は、ゲストティチャーとして有料ボランティアとなるかと思えます。有償か無償かについては学校の判断によって決まります。

7.肩書きがつくと動きにくいかな。仲間意識が揺らぐ

回答 仲間意識は大切なことですが、コーディネーターとしてリーダーシップを発揮しているということを考え、ここは割り切って活動願います。

8.コミュニティ委員会が活動を始めて長いのでその方とのコミュニケーションのとり方

9.学区内に居住していないために地域の方々とのつながりが無い。

回答 地域の人材を見つけることは居住していてもなかなか難しいものです。副校長とよく連絡を取り合い、連携して地域とつながり、人材を見つけて行っていただきたいと思えます。学校に派遣する人材は、地域に限らず広く必要とされますのであまり地域のことだけを考えず自分の得意なところから始めていただきたいと思えます。

10.1 校に複数のコーディネーターを置けないか。

回答 コーディネーターを複数にすることや1人のコーディネーターの基にチームを作り活動することなども考えられます。来年度に向け検討させていただきます。

11.来年度一人でコーディネートするのは大変だと思います

回答 10と同じ趣旨かと思ひます。検討させていただきます。

12.活動の頻度(学校に行く回数)皆さんどれくらいなのか

回答 次回のコーディネーター懇談会にて情報交換をします。

13.踏み込める限界は・・・発達障害、不登校、生保などプライバシーにかかわる支援

回答 4.の②と同じ

14.活動の具体的なイメージが漠然としている。

回答 学校が取り組んでいるボランティアを活用した教育実践を参観し、それにいたる経過を把握してください。学校においてボランティアを活用している実践、その中で活用されている人材を把握し、次回からは自分がコーディネートする立場でどのように進めて行っていたらよいかお考えください。学校の教育活動計画を基に「どの単元では、こんなボランティアいると良いな」という自分なりの夢を持って人材を探したり、先生方と連携を深めたりしていただけたら思ひます。

15.自治会役員の中の協力人材をどうやって引き出すかその方法があれば

回答 ありきたりの話ですが、まず、副校長とともに、あるいは副校長にコンタクトを取っていただき会長と面談をします。そこで、コーディネーターとしての仕事を理解していただくとともに、学校が地域の人材を欲していることを理解していただきます。その上で、人材や人材をつなぐ人を紹介していただけたらよいかと思ひます。

16.学校から教育ボランティアを探してほしいといわれた場合、要望人数を探せなかったとき、支援センターで協力していただけないのか

回答 十分努力していただき、それでもという場合は遠慮なく支援センターにご相談ください。

17.周知の仕方と応募を促す仕組み

回答 学校便りの活用、地域の会合、行事への参加など副校長と連携した共同行動などで充実されるようお願ひいたします。

18.先生方がどんな支援を望まれているか良く分からない

回答 副校長先生方に、月1度学年代表者との会合や教職員と様々な場面でふれあい、教職員の声を聞けるよう配慮していただくようお願いしてあります。又、「どんな支援を望まれているか」というだけでなく「この活動ではこんな人材を活かしてほしい」と積極的な提案もお願ひいたします。

19.学校サイドが趣旨をきちんと理解し、体制も出来るのか

回答 現在、ボランティアコーディネーターが活動している学校は、町田市教育委員会の募集に積極的に応えてボランティアモデル校として立候補した学校ばかりです。始まったばかりであり、活動に不十分なところもあるかもしれませんが学校・コーディネーターが互いに連携し充実した活動となるよう期待しております。

20.学校支援ボランティア、団体、個人の情報収集をどうすればよいのか

回答 17.と同じ

21.地域の特性や校長の考えなどでコーディネーターの意味合いが違ってくるのでは・・・足並みがそろつかしら

回答 今年度のコーディネーターの役割として、学校がどんな活動の中でどんな人材を活用しているのか把握すること。様々な地域会合や地域行事に数多く参加し、人材の発掘に努めること。教師、児童・生徒と数多く触れ合うことなどを基本としています。各学校にはそれぞれの経過がありますから「一斉に足並みをそろえて」ということは無理かと思ひます。他と比較せず自校の活動を見据えあせらず、じっくり進めていってほしいと思ひます。

22.どこに、どのようなボランティアが必要になっているかというコーディネーターとして重要な情報は近所での立ち話、長電話などの中で得られるものでは。これを活動日誌に書くのは難しい

回答 何気ない会話やふと目をとめたことなどが人材発掘に大いに役立つことがあります。そのすべてを活動日誌に書くことを勧めているわけではありません。ご自分でこれは教育活動につながったと考えたり、すぐには活かさないけどいい発見をしたと思ったりしたときなどは遠慮なく記入していただきたいと思ひます。

お願い ボランティアコーディネーターの皆様へ
学校支援センターは、各学校のボランティア活動の把握と紹介に努めております。つきましては、ボランティアコーディネーター様関わったボランティア活動を実施される場合は、事前に必ず支援センターまでご連絡お願ひいたします。Tel 722-3111 (内線) 3608 佐藤・岡田まで

情報

11月19日

町田華道協会の方々3名が教育長と懇談されました。「華道を是非、学校の教育活動の中に取り入れて欲しい。協会として全面的に協力したい」との事でした。6年社会科、総合、クラブ・部活動などで活用を

連絡先

町田市華道協会会長

川添 一光様

Tel 042-795-0624

NPO法人

インターナショナルスポーツネットワーク様から、学校の水泳指導の一環として【着衣泳】の指導の支援を行いたい旨の申し出がありました。町田市の委託により【障がい者水泳教室】にも取り組まれている団体です。日常の水泳指導にも協力いただけるかもしれません。

連絡先

理事長 木島 正夫様

Tel 042-735-6964